

# 一般質問の概要

平成 28 年第 2 回 二宮町議会定例会

1 日目 6 月 8 日 (水) 午前 9 時 30 分～ (前田、二宮、善波、渡辺 各議員)

No	質問予定議員	質問概要
1	前田 憲一郎 議員	<p><b>二宮町の健康づくり事業について問う</b> (放映件名：二宮町の健康づくり事業について問う)</p> <p>村田町長の施政方針の中に「子どもから大人までの食育・健康づくり・未病改善事業を推進し、健康寿命の延伸に取り組みます。」とある。また、二宮町健康増進計画を見ると行動目標として「日常生活において気軽に体を動かし、子どもから高齢者まで、ライフステージごとにしっかりと運動を習慣化しましょう。」とあるが、運動の頻度に対する町の質問に対し、「運動していない」と回答した割合を年代別に見ていくと、40代が6割を超え最も高く、ついで20代、30代が5割を超えている。健康について気をつけていることは「適度な運動」が約4割と町民の運動に対する関心は比較的高いことがうかがえる。</p> <p>今年度の健康づくり事業を見ると、新たにポールウォーキングが加わるなど各種健診、教室等が多岐にわたり事業が企画されているが、健康寿命を延伸していくためには、4歳児から運動に親しませ、その後各ライフステージごとに適した運動をすることが重要であると言われていたにもかかわらず、高齢者介護予防事業は数あるものの、4歳児から高齢者になるまでの間の運動に関する事業が水泳教室以外企画されていない。そこで次の4項目について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 4歳から6歳までの就学前の子どもに対する体力づくりについて町の見解・方針について伺う。</li><li>2. 運動をしていない率が高い20代～40代の町民が運動に親しむようになるための施策を伺う。</li><li>3. 健康増進計画の中にある、町民の取組について4項目、地域の取組について3項目があげられているが、この取組に対して町はどのような支援事業を行う予定か伺う。</li><li>4. 将来的に見て、目標達成年度の平成36年度までに、町はどのように町民の健康増進を推進していくつもりか伺う。</li></ol>
2	二宮 節子 議員	<p><b>災害に対する町の取り組みについて</b> (放映件名：災害に対する町の取り組みについて)</p> <p>4月14日の前震、同16日の本震で震度7の揺れを観測した熊本地震は、発生から1カ月が経過しても震度1以上の余震が1500回を超え、有数の農業国に甚大な被害をもたらしています。</p> <p>被害は防災拠点としての役割を果たす庁舎にもおよび損傷のため使用不能となりました。財源問題もあり耐震工事が未実施であった4ヶ所や補強工事を終えていた庁舎も2度の震度7で退去を余儀なくされるなど、行政の業務が滞り被災者の支援に支障が出ました。いざという時に大切なのは『とりで』となる庁舎があることです。そこで今回の事例を教訓に、改めて最悪の事態を想定し防災計画などに反映させていくことが重要と考え、わが町の取り組みについて以下5点 質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>(1) 町役場庁舎の耐震化について</li></ol>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 業務継続計画について</li> <li>(3) 指定避難所の非構造物への耐震化対応</li> <li>(4) 避難所等のトイレ設備の認識と対応</li> <li>(5) 被災者支援システムについて</li> </ul>
3	善波 宣雄 議員	<p><b>二宮町役場庁舎・駅前町民会館の安全性について</b> (放映件名：役場庁舎・駅前町民会館の安全性について)</p> <p>本年、4月14日以降に熊本県、大分県では相次いで地震が発生し、生命や財産を失うなど甚大な被害をもたらしました。この熊本地震では災害対策の拠点となる役所庁舎が損壊し、使用不能となる自治体が相次ぎました。</p> <p>学校などに比べ庁舎の耐震化は全国的に遅れていると言われていました。司令塔となる場所を失えば、被害情報の収集や被災者支援などに支障がでます。災害時の対応として、まず、第一に災害対策本部が確保できなければ、住民の安全を確保する事はできないと思います。</p> <p>日本列島のどこで、いつ起きるかわからない地震の対策について、役場庁舎及び駅前町民会館の現状と今後について問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 震災時に災害対策本部となる役場庁舎の安全性について</li> <li>(2) 役場庁舎を安全な場所へ移転、耐震補強する考えはあるか</li> <li>(3) 災害時における駅前町民会館の安全性について</li> <li>(4) 耐震補強できない駅前町民会館の今後について</li> </ul>
4	渡辺 訓任 議員	<p><b>町の災害対応力の強化・充実を求める</b> (放映件名：災害対応力の強化・充実を求める)</p> <p>熊本震災では、防災に加えて、発災後の対応準備の重要性を改めて認識させることとなった。昨年6月議会では、直近の小笠原諸島西方沖を震源とする地震に関連して、地震計の設置や町防災計画の具体化について取り上げた。その後の各地の経験に基づいて、防災・災害対策について視点も広がっている。町防災計画の実行性をさらに高めるという点から、今後の災害対応力の強化について問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 地域防災研究会が「地区防災組織活動マニュアル作成の手引き」を作成、町に提言をしているが、これに基づいての各地区でのマニュアル作成の進行状況はどうか。</li> <li>2. 前回机上訓練を行って4年が経過するが、実施についての今後の計画は。</li> <li>3. 広域避難所の収容力や施設数・設備は十分か。山西小学校の広域避難所としての安全性は担保されているか。</li> <li>4. 災害時には、一時避難所、広域避難場所、津波災害指定避難場所などにまず身を寄せ、自宅に住めない場合に広域避難所に避難するとしている。地区・地域で状況が異なる中、一時避難所・広域避難所の位置づけに柔軟性を持たせられないか。</li> <li>5. 震度計の移設について進捗状況は。</li> </ul> <p><b>地域公共交通の充実について</b> (放映件名：地域公共交通の充実について)</p> <p>2013年12月町内地域公共交通として、現在の形でデマンドタクシーとコミュニティバスの試験運行が開始され、この11月で3年が経過する。地域公共交通活性化協議会で再編成へ向けての検討が始まっているが、地域公共交通のあり方は多くの町民の生活と町財政に対する影響が大きい。現在</p>

	<p>の事業検討の進捗状況と今後の見通しについて問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現時点での地域公共交通の実績と状況はどのようになっているか。</li> <li>2. 現在の地域公共交通に関する検討内容および進捗状況はいかがか。現在の事業の見直しと新しいシステムを立ち上げる見通しはどうか。</li> <li>3. 今後の地域公共交通の枠組み・方向性をどのように考えているか。</li> </ol> <p><b>町立小中学校へのエアコン設置を求める</b>  <b>(放映件名：小中学校へのエアコン設置を求める)</b></p> <p>近年、夏休みを挟んだ6、7月と9月に真夏日が発生する頻度が高まる傾向が顕著となり、扇風機だけで良好な学習環境の確保が難しくなっている。町では保護者・関係者からも小中学校へのエアコン設置を求める声が聞かれる他、近隣の自治体でも徐々にエアコン設置が進んでおり、エアコンの設置は特別な要望では無くなってきている。二宮町における小中学校へのエアコンの設置を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 気象統計で6月から9月まで真夏日の頻度が高くなっているが、学校教室の環境、特に気温はどのようになっているか。</li> <li>2. 普通教室も含め、教室へのエアコンの設置を要望するが来年度からの実現は可能か。</li> </ol>
--	--

5	露木 佳代 議員	<p><b>より良い学校給食の実現を求める</b> (放映件名：より良い学校給食の実現を求める)</p> <p>町の給食センターは平成 22 年に建て替えられ、非常に良い衛生状態の中で毎日約 2,200 食が作られている。小・中学生は、授業はもちろん、クラブ活動、部活動、休み時間や行事を通してさまざまなことを学び、また給食を通して食生活、食文化を育みながら、楽しい思い出を作る。先日、有志の団体が行った給食試食会においても、参加者は自然と笑顔になり、給食風景や味を懐かしんでいた。食べること、そして人と人とが食を共有することは、生きる根本であり、何よりも大切にしたいものである。そこで、より良い学校給食の実現に向けて以下のことを問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校給食について、町は何を大事にしているのか</li> <li>2. 学校給食に関する保護者の意見、要望にはどう応えているか</li> <li>3. 食材、産地、放射能検査、添加物、献立、給食実施回数などについて</li> <li>4. 特色ある給食を取り入れる考えは</li> <li>5. 災害時の給食センターの活用について</li> </ol>
6	小笠原 陶子 議員	<p><b>二宮町の橋りょうの改修について</b> (放映件名：二宮町の橋りょうの改修について)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 百合が丘と一色を結ぶ人道橋である「中堰橋」が通行止めになっている。地域住民の生活道路が使えず高齢化の中、買い物など徒歩でしか行かない方も多く、早い復旧が望まれているが、閉鎖の経緯と開通までどのくらいかかるのかを問う。</li> <li>2. 2012年12月に中央自動車道路で発生した笹子トンネル天井落盤事故以降、日本の道路、トンネル、橋りょうの老朽化対策が注目されている。セメントの寿命は50年と言われている中で、当町の橋りょうの老朽化が気になる。そこで、二宮町橋りょう長寿命化修繕計画が平成25年3月に策定されている。町内46か所の調査は終わっていてランクがつけられた。ただし、ホームページに掲載されている表にはランクは書かれていない。ランク2は安全性に影響を及ぼす損傷ありとなっている。百合が丘1丁目と2丁目を結ぶ高い橋の老朽化が心配だとの住民の声で確認したところ、ランク2となっている。計画書にはランク2以下は5年以内実施するとなっている、町も順次改修していく計画だが今後のスケジュールを確認する。</li> <li>3. 町は限られた財源の中で毎年予算を組み立てているが、安全なまちづくりが最優先される。 ランク2が14か所あるとのことだがどういう順番で改修していくことになるのか確認する。</li> </ol>

7	野地洋正 議員	<p><b>「安心して住み続けられる地域再生事業」公共施設再配置・町有地有効活用等の検討、一色小学校区地域再生事業は、今後どう進むのか（放映件名：地域再生事業の今後について問う）</b></p> <p>第1回定例会において、平成27年度一般会計補正予算繰越明許として可決された「安心して住み続けられる地域再生事業」30,054千円がよいよ動き出した。</p> <p>この予算は、地方創生加速化交付金とする国庫補助金であり、1つは公共施設再配置・町有地有効活用等の検討、2つめは一色小学校区地域再生事業に活用される。二宮町総合戦略に基づき新しい人の流れ、まちの活性化、将来のまちづくり、さらには町民の生活へも直結する大変重要な施策、事業であり、町民も大きな関心、そして期待を寄せている。</p> <p>しかし一方、単年度事業であることから来年度はどうなるのか、継続性があるのか、事業を活かせるのか、さらには既存の5つの小中学校はどうなるのか、などさまざまな不安、疑問を感じている人が多いのも事実である。そのためには一部の関係者だけにとどまらず、町民へ情報を発信し共有すること、不安や疑問を解消すること、行動や意見発言などの参加を促すこと、などが必要不可欠と考える。</p> <p>したがって、全町民が情報を共有し、理解ができるよう、動き出したこの2つの事業について改めて伺うものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「安心して住み続けられる地域再生事業」の目的と、2つの事業の関連性</li> <li>2. 公共施設再配置・町有地有効活用等検討事業の目的、現在の進捗、タイムスケジュール、今後の進め方</li> <li>3. 一色小学校区地域再生事業の目的、現在の進捗、タイムスケジュール、今後の進め方</li> </ol>
---	------------	---

8	一石洋子 議員	<p><b>協働の防災減災文化の根付くまちづくりを実現するために (放映件名：協働の防災減災文化の根付くまちづくり)</b></p> <p>①阪神淡路大震災、東日本大震災、熊本震災と未曾有の大震災が続く。明日は我が身と思う今、最大の教訓である地域の防災力を高めるということにしっかり取り組むべきである。第5次総合計画中期基本計画の重点的方針に大規模災害を想定して自助、共助を基本に町民と行政が協力・連携により減災文化が根付くまちづくりを進めるとある。その実現に向けた取り組みを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二宮町の各家庭にあるハザードマップは平成24年に神奈川県が更新した津浪想定に基づいて保存版として発行されたもので、津浪想定は5m前後である。しかし、説明書きとして、想定外の大きな津浪の可能性を示し、大雨による浸水予測についても想定されない浸水地域があると書いてある。平成27年に県は最大の津浪想定として二宮町については、17.1mと発表した。想定外を無くすということが巨大地震、また異常気象の教訓であった。喫緊の修正とハザードマップの限界について町民に示すべきではないか。</li> <li>・中期基本計画に、町民一人ひとりの防災意識を高めると共に、家庭や地域での防災活動や地域コミュニティにおける繋がりや絆により減災文化を築くことが喫緊の課題であると明記されている。自主防災組織に今後どのように関わり、牽引するのかを問う。</li> <li>・時間、空間、災害の多用なレベルでのシミュレーションが必要である。今までと今後の取り組みを問う。</li> <li>・学校と連携した防災学習体験について。</li> </ul> <p>②明治初期、一色村に私設消防組が誕生し、昭和23年消防法が施行され自治体消防として設置されてから、29年5分団とする消防団の組織となった。伝統的に二宮町のコミュニティの大黒柱であり続け、消防のみならず、町内の若者達の交流と活性化、郷土文化を育む礎であったのではと議員となり消防団の方々との会合に参加して強く感じた。社会状況が急激に変化し、今、被用者の割合が増え団員不足が常に課題となっている。そもそも昼間町内にいない人が多くを締め、応援すべき子育て家庭に負担がある。この仕事を引き受けて下さる方々は本当に素晴らしい方たちであり、私たち町民はもっと共有し、大切に応援する機運を作りたい。また、一方で社会的、また災害状況の変化に対応する新しい体制を研究するべきではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機能別消防団について</li> <li>・裾野を広げた後方支援体制について</li> </ul> <p>③防災は全ての人、一人ひとりにかかわる、実は深くて大きいテーマである。地域資源を統一し、防災と福祉を繋ぐビジョンを生み、強い地域を作る鍵がある。福祉と防災の視点を問う。</p>
---	------------	---

備考：8日（水）の2番目～4番目、9日（木）の6番目～8番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。